

わかかないし
稚内市都市再生整備計画(第5回変更)

わかかないしちゆうしんしがいちちく
稚内市中心市街地地区

北海道稚内市

平成24年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	ホッカイドウ 北海道	市町村名	ワッカナイシ 稚内市	地区名	ワッカナイシ チョウシンガイチ 稚内市中心市街地地区	面積	62 ha
計画期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度	交付期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度				

目標

- 大目標: 日ロ友好最先端都市の形成
 目標1 「マチ」と「みなと」が一体となった魅力ある都市構造の形成
 目標2 “住んでみたい、訪れてみたい「マチ・稚内」の実現(賑わいある生活街の形成)
 目標3 海に開かれた交流による都市観光の推進

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・稚内市は日本の最北に位置し、サハリンまで43kmの国境の都市である。
- ・また、近年のモータリゼーションの進展への対応の遅れや、建物の老朽化による住環境の悪化、大型店舗の郊外出進等により、郊外への人口流出が続き市街地の空洞化が進行し、かつての「マチ」の賑わいを失いつつある。
- ・稚内港では『マリンタウンプロジェクト』として「みなと」の再整備に係わる計画が進行中。中央ふ頭への国際・国内フェリーターミナル機能の集約化が進められており、「マチ」と「みなと」の連携による一体的なまちづくりと新たな賑わい創出が求められてきた。
- ・平成14年度に、国の「全国都市再生のための緊急措置～稚内から石垣まで～」(都市再生本部決定)において本市は、「都市観光の推進」をテーマとした取り組みとして採択を受けている。
- ・平成15年度に『市街地総合再生計画』、平成16年度に『中心市街地活性化基本計画』を策定し、その基本テーマを“日ロ友好最先端都市の形成”として都市再生に向けた方策検討を進めてきている。
- ・本地区は「中心市街地地区」として位置づけられており、平成17年度よりTMOによる活性化諸施策が展開されている。
- ・本地区においては、市街地(マチ)と港湾(みなと)の一体的再生に係わり、駅周辺拠点整備については商店街振興組合のほか、みなとまちづくりに関する市民団体の活動など、TMO活動と連携したまちづくり活動の展開が進展中である。
- ・平成16、17年度には、全国都市再生モデル調査に採択され、風雪に強い快適で魅力的な空間づくり、日ロ交流の賑わい創出をテーマに、市民参加のもとに検討と具体的な実践が実施された。(テーマ“美しい「マチ」～「みなと」空間による「日ロ友好最先端都市」の形成”(H16)、“「日ロ友好最先端都市」にふさわしい国際交流活力による、にぎわい-文化-最北情景創出”(H17))
- ・本整備計画は、平成17年度に関係機関を含め「都市再生整備計画検討委員会」(事務局稚内市)により計画を策定し、パブリックコメント等による住民合意を通して策定するものである。

課題

- ・みなと資源を生かした「マチ-みなと」の連携強化、人々が住み集まり過ごす魅力と賑わい創出のための、都市構造再編・拠点形成・ソフト充実が早急の課題である。
- ・稚内駅周辺においては「マチ」と「みなと」が分断しており、機能及び空間の連携を強化し、それぞれ一体的に整備することにより相乗効果を図っていく必要がある。
- ・鉄道、市内バス等の交通機能が分散立地しており、利便性及び安全性の低下に対応していく必要がある。
- ・人々が集まる拠点性が喪失していることから、交通結節点とともに情報発信や生活サービスを含めた拠点性を創出していく必要がある。
- ・厳しい冬季の風雪への対応、市民のシンボルである北防波堤ドーム(北海道遺産)の積極的な活用、人に優しく魅力的な都市空間を創出、それらをネットワーク化していく必要がある。
- ・サハリンに最も近い街として、日本における日ロ交流の促進を図る必要がある。
- ・高齢化の進展、まちなか居住の減少にともなう、中心市街地の活力低下に対して適切な活性化方策を展開していく必要がある。

将来ビジョン(中長期)

「マチ」と「みなと」が一体となった、日ロ友好最先端都市の形成

- ・「稚内市都市再生ビジョン」(平成15年)においては、本地区がもつ固有の資源である、1)古くある「生活街」としての顔、2)「最北の地」ならではの全国的な知名度、魅力、3)港まち、かつての底引船基地ならではの「海の賑わい感」、4)サハリンへの玄関口としての異国情緒と国際性を生かし、賑わいにあふれ、来訪者の最北へのあこがれに応える国際性の高いまちづくりを目指すとし、“日ロ友好最先端都市の形成”をビジョンテーマとしている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		目標値	
			従前値	基準年度	目標年度	目標年度
市民の中心市街地へ来訪頻度	%	少なくとも週1回は当地区に来街する市民の割合	増えた=8%	平成17年度	16%	平成23年度
地域交流センターへの入込数	人	地域交流センター(新設)への年間入込数	237,000人	平成17年度	540,000人	平成23年度
日ロ交流人口数	人	稚内-コルサコフの定期航路の利用者数	6,000人	平成17年度	6,300人	平成23年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・整備方針1. (「マチ」と「みなと」を結ぶ魅力的な都市軸の形成) 稚内駅前通を背骨とし、稚内駅周辺拠点を介した都市軸を形成し「マチーみなと」の一体化を実現するため、駅周辺拠点の整備、駅前通の環境整備、臨港地区の環境整備ならびにウォーターフロントおよび北防波堤ドームに向かうプロムナードの整備を行う。</p>	地域交流センター(基幹/市)、3.5.13北浜通(基幹/市)、稚内駅前地区第一種市街地再開発事業(関連/組合)、稚内駅前広場整備(関連/北海道)、JR稚内駅舎及び構内整備(関連/民間)、臨港地区緑地及び国際フェリーターミナル整備他(関連/市)、国道40号整備(関連/国)
<p>・整備方針2.(稚内駅周辺拠点の形成) 地域交流センター・稚内駅前広場・JR稚内駅・臨港地区緑地等を一体的に整備し、市民と来訪者が集い、賑わいと魅力的な交流拠点・交通結節点を整備する。</p>	地域交流センター(基幹/市)、3.5.13北浜通(基幹/市)、駅前広場バスシェルター等(基幹/市)、南側区画道路(基幹/市)、市道中央2号通(基幹/市)、サハリン文化交流施設整備(提案/市)、地域情報システム整備(提案/市)、地域情報システム計画調査(提案/市)、稚内駅周辺整備協議会の設置(提案/市)、稚内駅前地区第一種市街地再開発事業(関連/組合)、稚内駅前広場整備(関連/北海道)、JR稚内駅舎及び構内整備(関連/民間)、臨港地区緑地及び国際フェリーターミナル整備他(関連/市)、国道40号整備(関連/国)
<p>・整備方針3.(景観バリアフリーネットワークの形成) 駅周辺拠点を中心に、連携する拠点(公共施設ゾーン・北防波堤ドーム・第一副港、等)を快適で安全なネットワーク連携を図るとともに、中心市街地の回遊性を向上させる。</p>	中心市街地賑わいづくり調査(提案/市)
<p>・整備方針4.(日口交流による都市観光の推進) 日口交流の多様な展開、交流施設の整備により、「日口友好最先端」にふさわしい交流促進を図る。</p>	地域交流センター(基幹/市)、稚内駅前地区第一種市街地再開発事業(関連/組合)、臨港地区緑地及び国際フェリーターミナル整備他(関連/市)、日口交流事業(関連/市)
<p>その他</p> <p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動について TMOや商店街振興組合を中心とする中心市街地の活性化活動の展開、都市再生モデル調査(平成17年度)契機とする日口友好促進の活動展開、市民参加による「花いっぱい活動」や冬季の「雪明かりイベント」等を通して、都市再生への市民活動の継続と促進を図る。</p> <p>○交付期間中の計画の管理について 目標に向けて確実な効果と円滑な事業推進を図るため、稚内市、関係機関、TMO等から構成される「稚内駅周辺拠点整備協議会」を計画期間中を等して協働・協議の組織として運営を図る。また、事業の進捗等、計画に係わる情報公開を適宜実施し、市民合意と整備の波及効果を促進させる。</p>	

都市再生整備計画の区域

<p>稚内市中心市街地地区(北海道稚内市)</p>	<p>面積</p>	<p>62ha</p>	<p>区域</p>	<p>北防波堤ドームから港2丁目(第1副港地区)までの臨港地区、中央1丁目から5丁目までの地区と、港1丁目から2丁目までの国道40号線から臨港側(みなと側)</p>
---------------------------	-----------	-------------	-----------	--

